

# マス類の県内需給状況調査

とりまとめ：名倉 盾

本調査は全国養鱒技術協議会提出資料として、県内の養鱒関係者に種苗生産状況を聞き取り調査し、取りまとめたものである。調査内容は、種卵生産量(普通魚・バイテク魚)・種苗生産量(普通魚・バイテク魚)・河川湖沼への放流用種苗数・埋没放流出荷卵数・普通魚の種卵種苗価格・バイテク魚の種卵種苗価格である。このうち、年間種卵生産量、年間種苗生産量、河川・湖沼放流用種苗出荷量、埋没放流用出荷卵数を以下に示した。

## 1 今回調査した養鱒経営体数

今回調査した経営体は33経営体であった。

## 2 県内の生産量

平成23年度の年間種卵生産量(表1)、年間普通種苗生産量(表2)、河川・湖沼放流用種苗出荷量(表3)、埋没放流用出荷卵数(表4)は次の表に示すとおりであった。

表1 年間種卵生産量

単位(万粒)

魚種名	普通卵				計	バイテク卵	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月		全雌3倍体	計
ニジマス		304	530	644	1,478	32	32
ヤマメ				166	166		
イワナ				253	253		
アマゴ				50	50		
ブラウントラウト				4	4		

表2 年間普通種苗生産量

単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	1,006.0
ヤマメ	113.8
イワナ	143.3
アマゴ	60.4
ブラウントラウト	4.0

表3 河川・湖沼放流用種苗出荷数

単位(万尾)

魚種名	年間放流数
ニジマス	11.5
ヤマメ	23.8
イワナ	17.2
アマゴ	51.7
ヒメマス	13.4

表4 埋没放流用出荷卵数

単位(万粒)

魚種名	年間放流数
ヤマメ	8
イワナ	28.5

### 3 魚種別生産経営体数

魚種別養殖経営体数と種苗生産経営体数は表5に示すとおりであった。

表5 魚種別養殖経営体数と種卵生産経営体数

魚種名	養殖経営体数	種卵生産経営体数 (%)
ニジマス	19	6 (31.5)
ヤマメ	17	8 (47.1)
イワナ	16	8 (50.0)
アマゴ	12	5 (41.7)
ブラウントラウト	5	1 (20.0)
カワマス	3	1 (33.3)
ヒメマス	4	1 (25.0)
サクラマス	3	0 (0)

### 4 種卵生産量と種苗生産量の経年変化

#### (ニジマス)

平成23年の種卵生産量は前年比197万粒(15.4%)増の1,478万粒、種苗生産量は前年比56.2万尾(5.3%)減の1,006万尾であった。

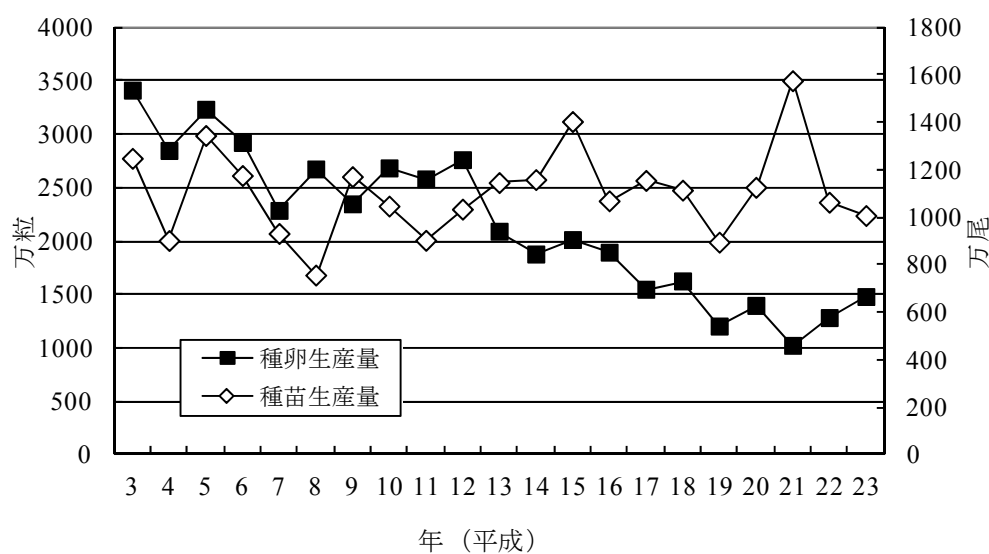


図1 ニジマスの種卵・種苗生産量の経年変化

#### (ヤマメ)

平成23年の種卵生産量は前年比31万粒(23.0%)増の166万粒、種苗生産量は前年比49.3万尾(30.4%)減の113万尾であった。

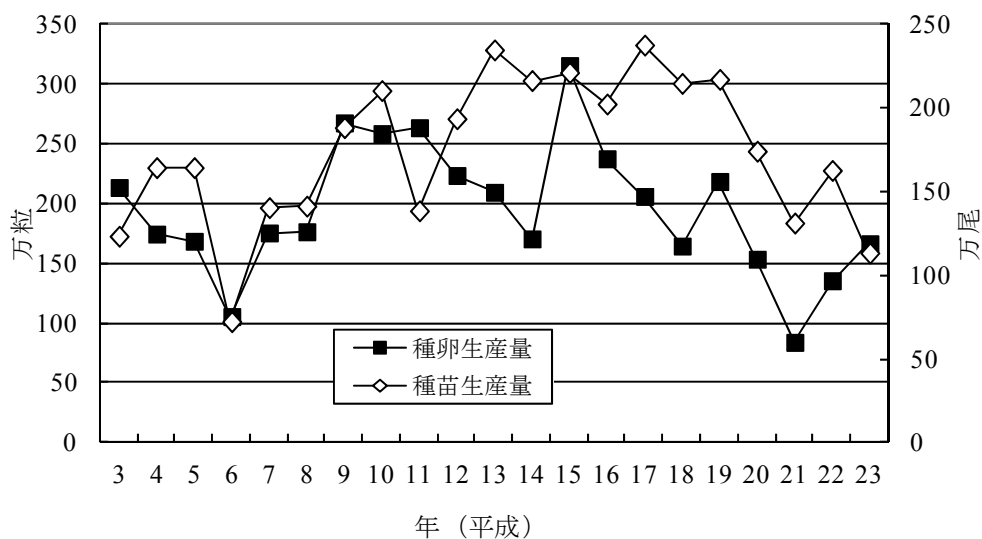


図2 ヤマメの種卵・種苗生産量の経年変化

**(アマゴ)**

平成23年の種卵生産量は前年比116万粒(69.9%)減の50万粒, 種苗生産量は前年比26.9万尾(30.8%)減の60.4万尾であった。大幅な減産は台風被害によるものであった。

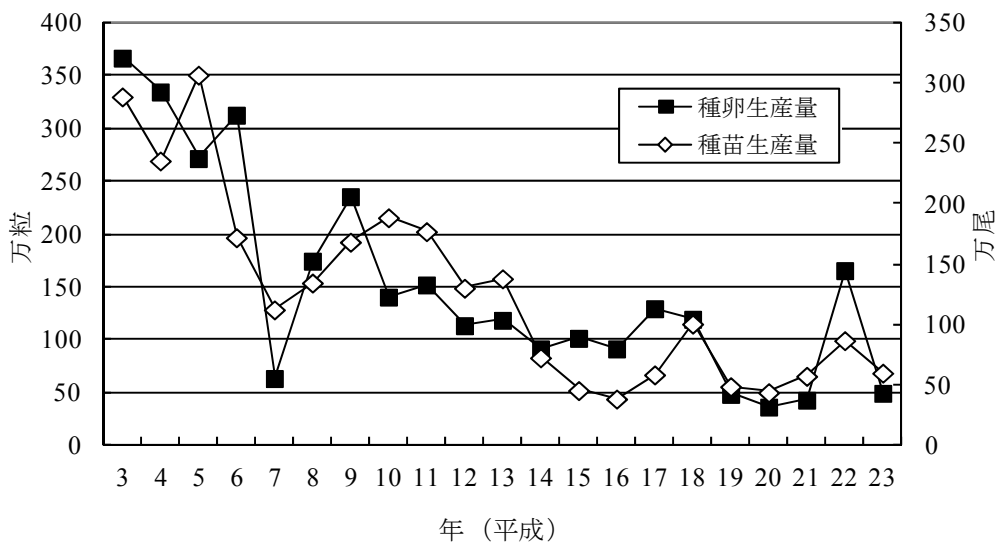


図3 アマゴの種卵・種苗生産量の経年変化

**(イワナ)**

平成23年の種卵生産量は前年比77万粒(23.3%)減の253万粒, 種苗生産量は前年比22.3万尾(18.4%)増の143.3万尾であった。

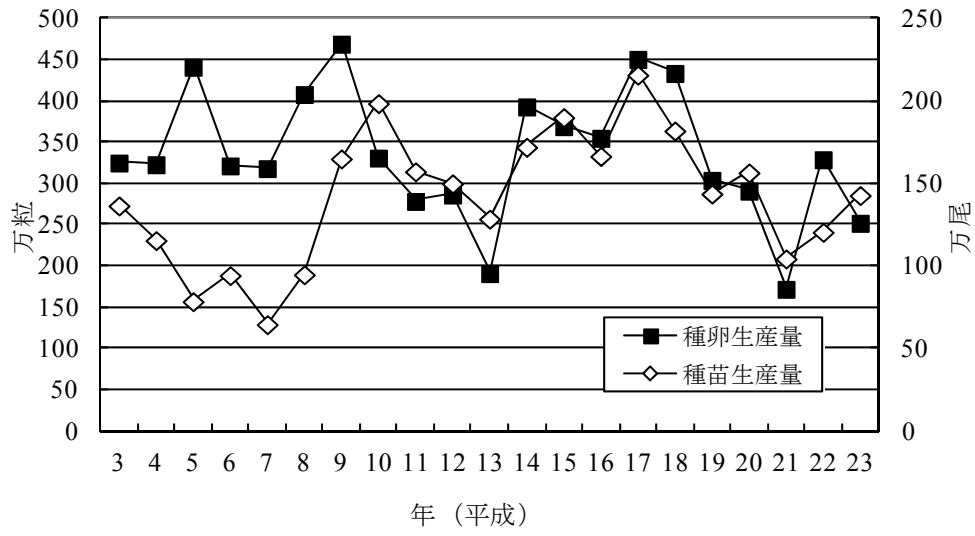


図4 イワナの種卵・種苗生産量の経年変化